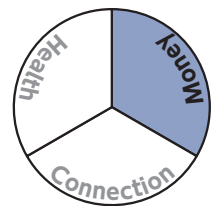


向こう1年間の市場見通し (8月6日時点)



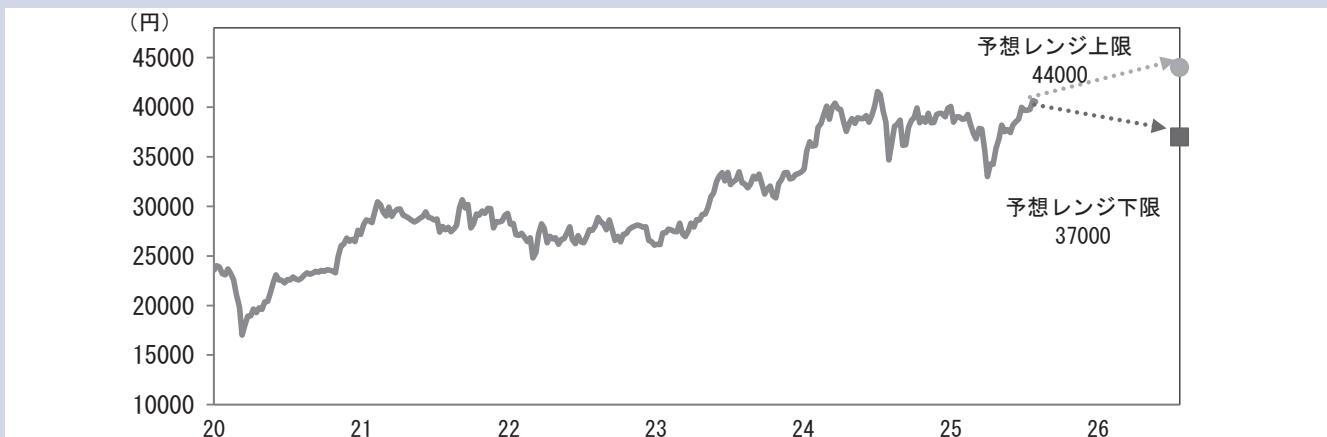
経済調査部 主席エコノミスト 藤代 宏一(ふじしろ こういち)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は、米国の通商政策に対する不透明感後退などから上昇基調にある。自動車を中心にトランプ関税に対する警戒感が残存するものの、内需の安心感が強まっている他、防衛、インフラ関連が投資家を惹きつけている。この間、日本企業の積極的な株主還元が相場を支える構図も続いている。
ドル円	FRBはインフレ率加速の懸念から政策金利を据え置いてきたが、労働市場の一部に弱さが見られているため、年内に利下げを開始する見込み。ただし、インフレ率が再加速するとの懸念が煽る中、連続的な利下げにならないことも想定される。その場合、ドル高主導の円安が進む可能性がある。
金利	日銀は7月に政策金利を0.5%で据え置いたものの、通商政策の不透明感が後退したこともあり、利上げ方針は維持した。インフレ圧力が強い中、日銀は年内に利上げを再開しよう。その後、2026年前半までに1%に達する可能性がある。長期金利は1%台半ば～後半で推移するとみている。

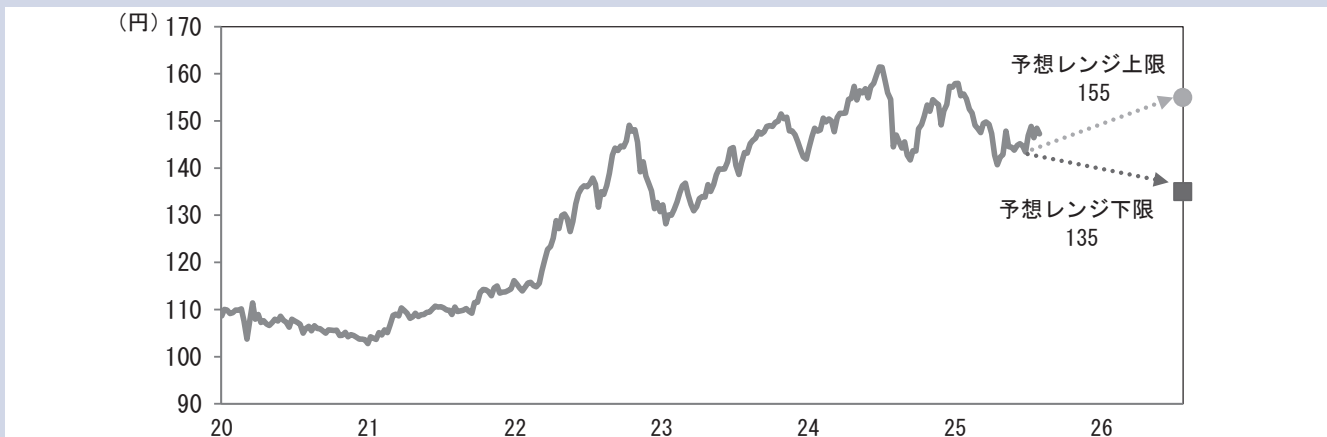
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所)LSEGより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所)LSEGより第一生命経済研究所作成